

5 活動事例紹介

・本町の自主防災組織で災害時に備えて、独自に活動をしている事例紹介です。

■大泉町南部南自主防災会（旧第27区）

○令和元年東日本台風（台風第19号）時の対応

台風上陸の朝に自治会3役・社協長・民生委員が集まり、一人暮らし高齢者を名簿でチェックして高齢者2名を午前中に避難所へ送った。また、町からの避難情報をうけ、自治会3役が自治会内を3エリアに分け、各隣組長へ電話などで避難情報を伝達し、組員へ連絡した。その後、自治会3役が自治会内を巡回し、避難所（文化むら）で待機をした。現在、自治会役員から各隣組長へ一斉連絡できる、連絡体制の構築を検討している。

■大泉町古海西防災会（旧第20区）

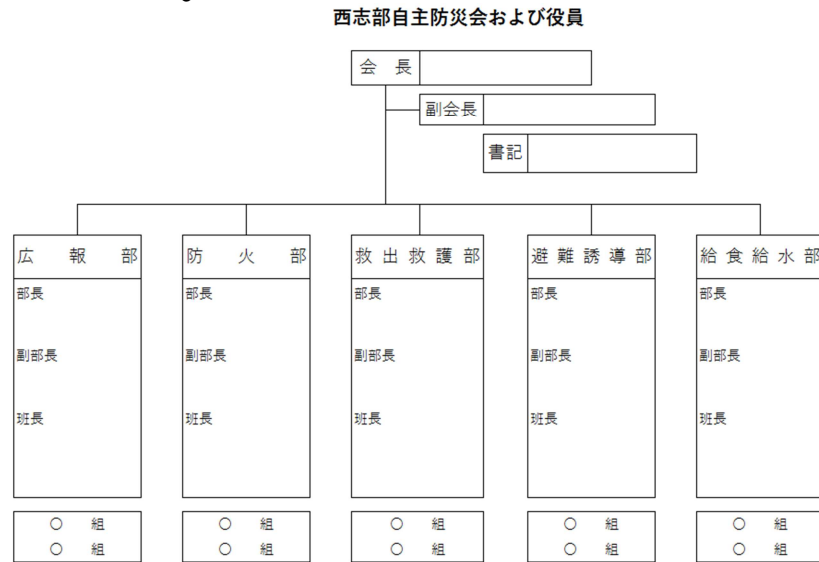
○令和元年東日本台風（台風第19号）時の対応

自治会役員などが公民館で待機し、情報収集などを行った。また、自治会役員が一人暮らしの高齢者へ避難について電話連絡した。しかしながら、連絡はしたが、避難を希望する方はいなかった。

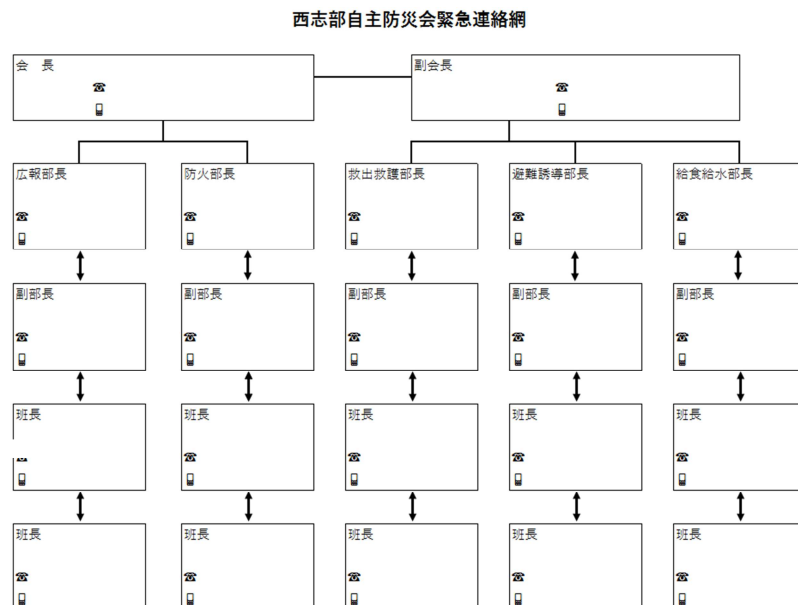
■大泉町西志部自主防災会（旧第29区）

○自治会員の安否を把握するシステム構築

災害時に自治会役員が自治会員の安否を把握するシステム構築を進めている。各隣組の中から3世帯～6世帯で構成する班を編成し、災害時は、班長が各世帯の安否状況を隣組長へ連絡し、隣組長が自治会役員へ連絡することで、自治会は全自治会員の安否を確認できる。組織および連絡体制は下記のとおりとなります。



西志部自主防災会組織図



西志部自主防災会緊急連絡網

- 注意事項 1. 災害発生の対応のため以外に使用は不可
 2. 個人情報であり、守秘義務の遵守
 3. 高齢 = 65歳以上の高齢者、要支 = 支援、補助が必要
 4. 未就 = 未就学児、小中 = 小中学生

隣組	班	氏名	人数	高齢	要支	未就	小中	隣組	班	氏名	人数	高齢	要支	未就	小中
2-1 広 報 部	1							7-1 避 難 誘 導 部	1						
	2								2						
	3								3						
3 防 火 部	1							9 給 食 給 水 部	1						
	2								2						
	3								3						
6 救 出 救 護 部	1														
	2														
	3														

西志部自主防災会名簿（抜粋）

川崎市の自主防災組織で前ページの西志部自主防災会（旧第29区）と同様な活動を行っている事例紹介です。

■かりがね台自治会（川崎市多摩区）

○20世帯を一つの班に分割し、班単位で支援できる体制整備

災害時にすぐに対応できるよう、地域を概ね20世帯を一つの班に分割し、班単位で避難行動要支援者名簿に掲載されている方を支援している。支援する方を避難行動要支援者名簿に掲載されている登録者に応じて、5～9名程度選定する。自治会役員と民生委員が連携して、初回訪問や定期訪問をし、支援する方も可能な範囲で訪問等を実施しています。